

●胃内視鏡検査

所見名	説明
胃がん	胃にできる悪性腫瘍の総称です。そのほとんどが胃の粘膜に発生しますが、粘膜以外（血管や筋肉、神経など）に発生するものもあります。早期がんで発見することで予後（生存率や生活の質）が良好となります。
胃癌	胃粘膜（上皮）に発生した悪性腫瘍で、胃がん（胃の悪性腫瘍の総て）のほとんどを占めます。
胃潰瘍	胃粘膜の深い欠損を伴う良性病変です。基本的には治療が必要となります。
胃悪性リンパ腫	胃粘膜ではなく、胃粘膜下の血液に発生したがんです。胃粘膜に発生する胃癌に比べて、発生頻度は稀です。胃MALTリンパ腫も胃悪性リンパ腫の一種です。
GIST	消化管間質腫瘍のことで、胃粘膜ではなく、胃粘膜下に発生する悪性腫瘍の一種（肉腫）です。胃粘膜に発生する胃癌に比べて、発生頻度は稀です。
胃底腺ポリープ	胃底腺領域（主に胃の上中部）にできる隆起性の良性病変で、基本的に治療は要しません。大きさは1 cm以下で多発しやすい特徴があります。
胃過形成性ポリープ	胃のどの領域にもみられ、大きさは大小様々で、単発の場合もあれば複数みられることもあります。ごく稀に癌化することがありますので、経過観察が必要です。
胃びらん	胃粘膜の浅い欠損を伴う良性病変で、基本的に治療は要しません。大きさは1cm未満で多発しやすい特徴があります。
胃憩室	胃壁の一部が外側（腹腔）方向に袋状に突出したもので、基本的に治療は要しません。
十二指腸潰瘍	十二指腸粘膜が傷つけられ、粘膜や組織の一部がなくなる病気です。主に十二指腸の入り口にある十二指腸球部に出来やすい特徴があります。
食道がん	食道にできる悪性腫瘍の総称で、胃がんに比べて、発生頻度は低いです。胃がんと同じく早期発見、早期治療で救命できます。
食道裂孔ヘルニア	食道が横隔膜を通り抜ける間隔である食道裂孔から、本来腹腔内にあるべき胃が胸腔内に入り込む状態をいいます。逆流性食道炎などの症状があれば治療の対象となります。

食道静脈瘤	食道の静脈がこぶ状に腫れた状態で、内視鏡などの精密検査が必要です。。主に肝硬変や肝がんに伴う門脈の血流障害により生じます。
アカラシア	食道から胃にかけての筋肉機能障害により、摂取した食物をうまく胃に運べない病態で、内視鏡などの精密検査が必要です。
逆流性食道炎	胃酸や胃で消化される途中の食物が、食道に逆流して、食道が炎症を起こし、胸やけや胸の痛みなどさまざまな症状が生じる病気です。
バレット食道	逆流性食道炎などで炎症を起こして傷害された食道の粘膜が、胃から連続して胃粘膜で置き換えられた状態をバレット食道といい、食道がんに対してリスクが高いといわれています。